

別紙1 参考様式

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
三豊市	財田大野地区(北側集落ほか8集落)	令和3年3月30日	

1 対象地区的現状

①地区内の耕地面積	226.30ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	154.33ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	54.34ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	23.29ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6.4ha
(備考)	

注1:③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5~10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区的課題

地区内の担い手とが少なく零細規模の農家が多く、今後農地の管理に不安がある。また、用水路の維持管理について、耕作者の負担が増えており、課題となっている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区内で新たな担い手を育成する必要があるが、地区内の担い手だけでは農地の管理ができないので、地区外の担い手へ農地を貸付を行い、集積・集約化を行う。

このため、農地集積・集約化のために、(公財)香川県農地機構や農業委員会等と連携し、農地の貸借が進むよう連携を取る。

担い手だけでは、農地や農業施設等の管理が困難があるので、多面的活動直接支払により農道や水路等の維持管理を行い、担い手やの負担を軽減する。

狭小で栽培条件に恵まれていない農地が多い地区では、借りてくれる農地にするため、基盤整備を検討する。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	水稻・麦	10 ha	水稻・麦	15 ha	地区内
認農	B	水稻・露地野菜	3.5 ha	水稻・露地野菜	3.5 ha	地区内
認農	C	露地野菜	1.1 ha	露地野菜	1.5 ha	地区内
認農	D	肉用牛	- ha	肉用牛	- ha	地区内
認農法	E	露地野菜	0.5 ha	露地野菜	1 ha	地区内
認農法	F	露地野菜	0.5 ha	露地野菜	1 ha	地区内
計	6人		15.6 ha		22 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。